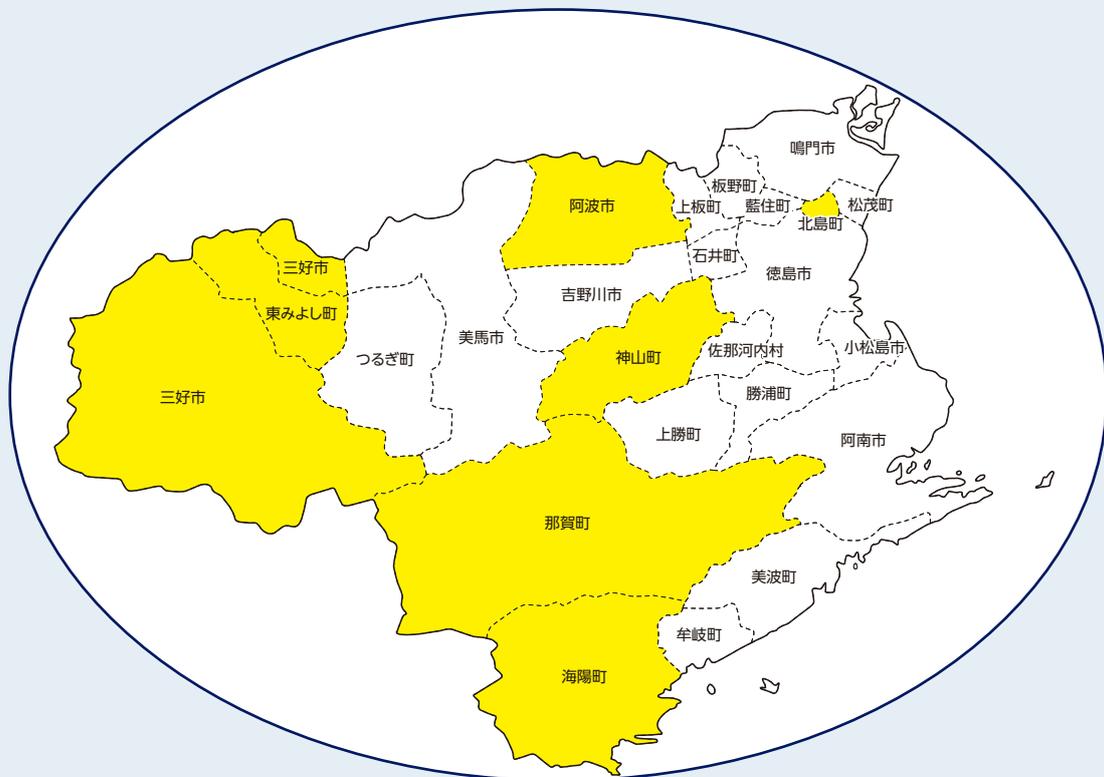


徳島県 地域包括ケアシステムサポート事業 における取組紹介

「地域包括ケアシステム」の構築に向けての課題解決を図るため、選定地区
に対しての取組支援を行うとともに、その成果について広く普及することで、
「地域包括ケアシステム」の更なる推進に努めることを目的に、平成27年度
から平成30年度まで実施しました。各地域における取組内容をご紹介します。



「多職種研修事例検討会」

神山町

● 経緯・地域の課題

高齢化率が50%を超え、高齢者ひとり暮らし・高齢者のみの世帯が増加している。生産年齢人口が減少する中、担い手不足が今後ますます深刻な問題となることが考えられる。

介護が必要となる期間を少しでも短縮するためには、適切なタイミングで必要な医療・介護等のサービスを受け、治療やサービスの中断がないように支援を行い、急速な病状の悪化等を予防することが重要である。

また、サービスを利用する際は、本人の状態を見極め、利用者の持っている能力を維持しながら、可能な場合は機能向上を図り、住み慣れた自宅での生活を長く続けていく仕組みづくりが必要であることから、本事業を開催することとなった。



● 取組の特徴・効果

より効果的に事業を実施するためには名西郡医師会の協力が必須であるため事業趣旨を理解していただき、石井町と合同で多職種研修事例検討会を平成30年度に3回実施した。

(平成30年7月、11月、平成31年2月)

事例検討(グループワーク)を円滑に進めるためにファシリテーター役の力量が必要となるため、「徳島県地域包括ケアシステムサポート事業」で、ファシリテーターのフォローと事例検討の総括として、徳島市医師会常任理事豊田健二医師を派遣いただいたことで、多職種でのグループワークがスムーズに進行できた。事例を通じて、疾患の理解とアセスメント・観察ポイント等を学び、日頃の業務の中で多職種との連携を図ることが少しずつ広がってきているように思われる。

【参加者からの意見として】

- ・他の職種の意見やアプローチの方法等自分にはないものを知り今後活かしたいと思った。
- ・インフォーマルサービスの必要性を感じた。
- ・それぞれの職種の業務を知ることができた。… など、前向きな意見をたくさんいただき、回数を重ねるごとにそれぞれの専門職から活発な意見が出されていた。

多職種研修事例検討会の参加者同士の「顔の見える関係」など、医療・介護等の関係者のネットワークが広がりつつあるので、多職種が連携を図り、引き続き、医療・介護両面から重症化予防に努めていく必要がある。



● 今後の展望

平成30年度は、「徳島県地域包括ケアシステムサポート事業」でファシリテーターのフォローと事例検討の総括をいただく講師を派遣していただき、多職種研修事例検討会が円滑に運営することができた。

今後も引き続き、名西郡医師会・石井町とともに多職種研修事例検討会を実施し、石井町・神山町両町の医療・介護・福祉等に従事している多職種の理解や情報共有など連携が拡充し、必要なサービスを継続することで心身状態の急速な悪化を予防し、何らかの原因で未治療や治療中断、サービス未利用や利用中断している方の「助けてほしい」の声を拾い上げていくことができ、住民が望む場所で望む暮らしができる体制を構築していきたい。

「那賀ライフ・シフトカレッジ」

那賀町

● 経緯・地域の課題

山間過疎地域で広大な面積であるが大部分は森林で集落が点在しており、社会資源が少なく、少子高齢化により支援が必要な高齢者が増加し専門職だけでは支えていくことが困難になっている。

既に多くの地域住民が地域づくり等で活躍しているが、更なる人材発掘が必要である。



● 取組の特徴・効果

地域の人材をどのように発掘するか？個人主義などにより多様な生活スタイルで地域に関心の少ない住民も少なくない。そうした住民が地域に関心を持っていただくにはどうすればよいか考察した。

人生100年時代の到来により、100歳までに必要な知識を学び、学習意欲の高い高齢者に継続した学びの機会を構築することにより、学んだことを他の高齢者に伝達したくなるのではと考え、そうなれば自主的なリーダーが育成されるのではと考えた。

高齢者自ら参加したくなるような研修になるように、内容については、高齢者約50名程度に学びたい項目を調査し、上位7項目に

「人生100年時代のライフスタイルについて」の項目を加え、全8回、毎月研修会を実施した。

全戸にチラシを配布し、60・70代を対象に受講生を募集した結果、19名の申込みがあった。

多くの受講生が積極的に参加し、学んだことを家族や友人に伝えており、自分に役立つ新しい知識は他者と共有したくなることが分かった。

19名中8名が全課程を修了し、10名が7割以上受講できたので18名に修了証を授与した。



	テーマ
第1回	人生100年時代のライフシフト
第2回	長生きの秘訣
第3回	退職金・年金で 突りある100年時代を乗り切るには
第4回	生きているうちにやっておくべきこと
第5回	健康寿命を伸ばして生涯現役①(運動)
第6回	健康寿命を伸ばして生涯現役②(栄養)
第7回	明日は我が身の認知症
第8回	これからの心の健康について／閉校式



● 今後の展望

社会資源の減少が考えられる地域なので、より多くの住民が主体的になれるように、今後も人生100年時代に必要な知識を学ぶ機会を提供し、地域住民と専門職が共に地域づくりを行える事業を行っていきたい。

「自然とやさしさ、心ふれあう福祉の郷」東みよし町の実現に向けて

東みよし町

● 経緯・地域の課題

高齢化率33.1%の県西部にある比較的小さな町である。地域住民は、穏やかな方が多く、一人一人の「地域のために」という意識は高いものの地域包括ケアシステムへのイメージがなかなか持てないという課題があった。

また、「何かをしてもらうこと」に慣れている方もおられるため、自分たちのために自分たちで何かに取り組もうと行動に移す時にどうすればよいのか分からない人が多いという課題もあり、東みよし町の地域包括ケアシステムをより具体的にイメージしていただけるよう、本事業を活用し、対象別に研修会や講演会を行った。



● 取組の特徴・効果

第1回目「地域包括ケアシステムって」

徳島大学大学院医歯薬学研究部 地域医療福祉学分野 教授 白山 靖彦 氏

行政職員や社会福祉協議会職員などを対象に、徳島大学・白山教授による研修会を実施しました。東みよし町の高齢化や人口推移などのデータを見て今後の展望予測なども聞き、危機感を感じた職員もいました。那賀町や阿波市などの先進地の取り組みを知り「東みよし町なら何ができる？これからどうするか？」といったことを行政と共に考える良い機会となりました。



第2回目「地域包括ケアシステムをつくるために大切なことは～みんなでつくる東みよし町～」

講師:那賀町地域包括支援センター 主任介護専門員 湯浅 雅志 氏
事例報告:特定非営利活動法人 どりーまあサービス 理事長 山口 浩志 氏
事例報告:那賀町社会福祉協議会 生活支援コーディネーター 亀井 伸幸 氏



町内の方だけでなく、町外の専門職や関係機関、生活支援体制事業の第一層協議体メンバー候補者を対象に基調講演と事例発表をしていただきました。地域包括ケアシステムとは「自分の健康を維持し続けること」「自分ひとりでは出来ないことを手助けしてもらえること」であるという言葉を受け、理解しやすく共感を得られました。また、事例を通じて、小さな町でも課題に対して、ネガティブに捉えるのではなく、「どう楽しく解決していくか」という視点で取り組んでいくことの大切さを伝えていただきました。

第3回目「地域包括ケアシステムについて～三好市医師会の取組～」

三好市医師会長 内田医院 内田 知行 氏

医療、介護の関係機関を対象に、三好市医師会の取組や開催してきた研修会の内容について丁寧に講演していただきました。医師会での意識も高く、医療との連携を今後も積極的に行っていくという意識が高まりました。



第4回目「長寿社会のまちづくり～地域包括ケアで健幸に～」

徳島大学大学院医歯薬学研究部 地域医療福祉学分野 教授 白山 靖彦 氏

福祉大会の記念講演として、地域住民を対象に講演いただき、地域包括ケアシステムについて、地域住民の理解を深めることが出来ました。そして、住民の方からは「人とのつながり」を大切にしていきたいとの声も聞かれ、今後の活動への意識を高めることができました。

● 今後の展望

地域包括ケアシステムについての研修会や講演会を通じ、専門職や行政だけでなく、地域住民にも地域包括ケアシステムのイメージが少しずつでき始めている。

今後は、「人とのつながり」の大切さを感じ、「一人一人が何が出来るのか」考え、行動に移せるよう働きかけ、東みよし町の地域包括ケアシステムが動いていけるようにしていければと思う。「住み慣れた地域で暮らしていくために」みんなで住みやすい地域になるよう取り組んでいきたい。

「三好市のあたたかい地域づくり」

三好市（三好市社会福祉協議会）

● 経緯・地域の課題

三好市の高齢化は、今後更に進むことが想定されている。三好市は広域なエリアで形成されているが、このうち大部分が急峻な山地。高齢や認知症による運転免許の返納、腰痛・ひざ痛や下肢筋力低下等で歩行が不安定になると、買い物や通院などが困難な状況になり在宅生活の継続が難しくなる。特に山間地域のアクセスは距離的にも時間的にも負担が大きく、高齢者の社会的孤立予防に特別な配慮が必要である。

そんな中、生活支援サービスを確保し地域で継続できる取組を実施することが、現実的に地域包括ケアシステムを充実させることに繋がることから当事業の支援を受けた。



● 取組の特徴・効果

日常的で身近な生活課題について、地域での助け合い、支え合いによって対応できる「あたたかい地域づくり」を目指すため、市内64組織が設置されている地区住民福祉協議会（以下、地区住協）を中心に、ニーズにあった生活支援サービスの創造について共に考える研修会を開催した。

三好市地区住民福祉協議会リーダー研修会（平成28・29年度）
「助け合い活動で暮らしやすいまちに！」講師 聖カタリナ大学 高杉 公人氏
○地域の活動実践報告 ○グループワークによる机上支援体験等

井川地域をモデル地区に指定し進めることで、ここで得た様々な課題解決の実体験を市内全域に広げ拡充した。井川地区は8つの生活圏域に地区住協が設置されており、住民自ら各種取組を平準化させるための交流研修を実施したり、総合事業を理解するための独自研修会を開催した。

また、高齢者の居場所づくり（サロン事業）や要援護者の見守り活動などを生活支援体制整備の一環として取り入れようと話し合いを進め、他の地域にない取組を進めた。

井川地区住民福祉協議会先進地視察研修（平成29年度）
「訪問型・通所型サービスB」見学及び交流研修会

○事業立ち上げから実施内容 ○地域全体で高齢者を支える仕組みづくり

介護予防と生活支援体制整備を目的とした「平成30年度生活支援サポーター養成講座」では、368名の申込のうち、井川地区から92名が受講修了している。井川黎明地区住協は行政や関係機関と勉強会を繰り返し実施し、地域内で検討を重ね、平成31年2月から通所型サービスBとなる「黎明健康サロン」を週1回実施している。現在、黎明地区住協の取組がモデルとなり、市内各地域でサービスB事業が立ち上げ準備を進めており、2019年度前期には訪問型1地区、通所型2地区がサービスB事業を開始する予定となった。こうして様々なことがきっかけとなり、少しずつ地域で「住民が主体となって行う支え合い、助け合いによる生活支援」が必要だと認識し、増えてくることで地域包括ケアシステムを充実させることに繋がっていく。



● 今後の展望

地域ニーズを継続して把握分析し、どのようなサポートが必要かを検討することで、地区住協を中心に高齢（要配慮）者台帳を活用したニーズに合った取組を進めていきたい。

＜充実させていきたい取組＞

- (1) ふれあいいきいきサロンの充実及び小規模化（山間部の一部地域で実践されてきている。）
- (2) 老人クラブ「まかせて会員」と「生活支援サポーター」によるご近所ヘルパー活動
- (3) いきいきサロンを発展させたご近所デイサービス活動
- (4) 住民主体による移動サービスの検討・実施

「しあわせの阿波プロジェクト」

阿波市

● 経緯・地域の課題

生活支援体制整備事業を円滑に開始するために、第1層協議体の設置や生活支援コーディネーターの選定、人材の発掘を目的に、当事業の支援を受けることになりました。本市は、NPOなど多様なサービスが少なく老人クラブもクラブ員の減少がみられ、地域のつながりが希薄になってきていることが問題です。



● 取組の特徴・効果①

取組の効果として、関係機関への事業開始の周知や市職員への研修を実施したり、第1層協議体の設置と生活支援コーディネーターを配置し、スムーズな事業開始ができました。

【平成30年度の取組について】

【作業部会】

月1回程度、関係機関が集まり作業部会を開き協議しながら事業を進めています。平成30年度は

- ①協力者の人材発掘
- ②元気高齢者の活躍の場をつくる
- ③虚弱高齢者の支援体制を整える

を目標に活動してきました。



【阿波オープンガーデン】

活動資金を集めることと、事業の広報活動のためバザーを実施しました。幟を作成し、生活支援COのチラシを作成、配布しました。バザーの収益はその後の活動資金となりました。



【小学生とお接待】

9番札所法輪寺で、サロン参加者と土成小学校児童がお接待を実施しました。法輪寺ご住職や、JA夢市場から支援いただき、お遍路さんとの交流もできました。



「しあわせの阿波プロジェクト」

阿波市

● 取組の特徴・効果②

【サロン活動発表会】

サロン参加者が、日頃の活動について発表しました。

リブドゥコーポレーションの協力で、サロンに対し参加賞として活動費を贈呈し、表彰を行い、サロン活動の気運を高めることができました。

ケーブルテレビで番組として放送し、その後2か所のサロンが新規開設となりました。



【あわ阿波踊り】

観光協会からの依頼もあり、ボランティア部会の方と綿菓子体験やくじ引きなど、子供向けのお店を出店しました。

ボランティアの方も阿波踊りに参加しながら、楽しんで協力してくれました。

【つきいちマルシェ】

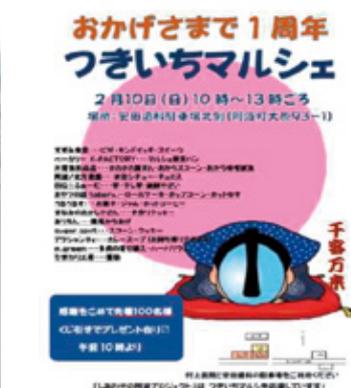
毎月第2日曜日、安田歯科駐車場で行われている「つきいちマルシェ」も平成31年2月で1周年を迎えました。隣接する高齢者施設入所者も、お店の人や生活支援C o と会えるのを楽しみにしてくれています。



【JA夢市場ジェラート販売】

JA夢市場の店長さんより「高齢者にジェラート販売員をしてほしい」と依頼がありサロンを紹介しました。

サロンの活動費が得られ、お客さんとの交流にもなっております。



● 今後の展望

現在の事業を継続しながら、人材の発掘をしていきます。今後は高校生など若い力を巻き込んでいくことを考えています。

「ニーズを出して解決していく」そこからいくつかサービスを作り、包括的な枠組みを作っていくこと＝「阿波市スタイル」として実施していきます。

「地域包括ケアシステムの展開」

北島町

● 経緯・地域の課題

昨今の地域包括支援事業の取組等により、介護サービス事業所・医療関係機関等の連携は強化されてきたが、地域での助け合いにおいての住民と行政との協働、また住民の意識や理解度は十分ではない。

今後は、より広範囲での協力体制を構築し、町全体が一体となって、いつまでも安心して暮らせる地域づくりを目指す必要がある。



● 取組の特徴・効果

➡ 住民による「通いの場」が誕生!

仕事を退職した60代の女性達を中心となって発足させた、多世代交流型のごちゃまぜサロン「みんなのお家」。

高齢者や子育て中の親子が集いあう、ご近所型交流の場は地域の繋がり希薄さが深刻化している同町に新風の効果をもたらしている。



➡ ささえあい活動担い手の発掘と育成強化!

昨年度までは別々に管理していた有償と無償のささえあい活動を町で一本化し、社協とNPOが連携して運営していくシステムを新構築。

福祉ネットワーク北島と連携し、福祉職員を対象としたアンケートを実施。フォーマルサービスでカバーしきれていない地域の困りごとを拾いあげ、担い手として登録されている地域住民に繋げていく。住民に向けての継続したステップアップ講習やフォロー体制の強化に重点を置き取り組んでいる。

➡ 新たな多種職連携が動き始める!

住民の暮らしと密接に関わっているスーパー等の生活関連産業の方との意見交換会を開催。

ニーズや課題等について膝をつき合わせた話し合いを実践。地域まるごとの包括ケアシステムに向けての第一歩となる。



● 今後の展望

協議体メンバーが地域住民の代弁者となり、自分達が思い描く地域像に基づいた町づくりを主体的に行えるような協議体を再構築し、継続した後方支援に徹していけるよう努める。住民が主役となる地域包括ケアシステムに向けて心機一転!

「海陽町らしい住民参加型地域包括ケアシステム」

海陽町

● 経緯・地域の課題

他の町より、速いスピードで高齢化が進み、支えられる側が増え、支える側が少なくなっている状況を受け、可能な限り住み慣れた海陽町で暮らしていくためにどうしていくのか、町の困りごとをみんなで考え、海陽町らしい「地域包括ケアシステムづくり」を検討するために、当事業の支援を受けた。

困りごと

- 人口減少
- 高齢化
- 働く場所が少ない…

こんな町にできたらいいね

- 高齢になっても安心・安全で過ごせる町づくり
- ボランティアの多い町づくり



● 取組の特徴・効果

支える側として、認知症サポーターの養成や介護保険事業者連絡協議会の設置、また、できる限り自立した生活が続けられるよう、「かよいよ元気体操教室」、「男性限定の介護予防教室」、若い方への「認知症予防講演会」、「海陽町在宅医療介護連携マップの作成」等を実施。

これらの取組の効果として、徐々にではあるが、各世代で、みんなで考え、みんなで支え合っているという思いが浸透してきた。

“支える人”と“支えられる人”をゆるやかに紡ぐ、
海陽町らしい住民参加型地域包括ケアシステムの実現

介護予防

- ・かよいよ元気体操教室
(いきいき百歳体操) 1回/週
- ・ベテランスクワ
(65歳以上の男性限定の体操教室)

在宅医療・介護連携の推進

- ・介護保険事業者連絡協議会
介護保険事業所が医療との連携について課題共有
⇒H29 医療機関とも連携
- ・介護職員研修会「チームケアについて」

生活支援体制整備事業

- ・協議体準備委員会の立ち上げ
⇒H29年度 1層協議体立ち上げ
⇒地域を指定し、モデル的に課題解決策を検討していく
(課題) H26～H28 住民座談会により課題把握(社協)

地域ケア会議

- ・地域課題を考える会
海南病院(看護師,PT,OT等),社協,町職員で、地域課題に向けて協議
⇒H28～山間部の訪問診療

認知症になっても 住みつけられるまちづくり

- ・認知症サポーター養成講座の実施
⇒こども世代、はたらく世代、おとしより世代に！
- ・認知症ケアパスの作成
⇒認知症の当事者や家族を支えるための社会資源の整理

支える人

海陽町地域包括ケアシステム

支えられる人

● 今後の展望

今後さらに、高齢化が進み新たな課題も出てくると考えるが、海陽町の様々な地域、人々がこれまでに築いてきたものをつなぎ、「支えなければならない人がいるならば、可能なかぎり支えていく」との思いで、海陽町らしい住民参加型地域包括ケアシステムを築いていきたい。